

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	器官病態内科学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	14単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 糖尿病、膵β細胞再生 (消化器内科学) 消化器病学、消化器内視鏡学、超音波医学 (呼吸器内科学) 呼吸器疾患 (循環器内科学) 循環器画像診断 (腎臓・体内環境調節内科学) 慢性腎臓病 (血液内科学) 造血管疾患におけるゲノム解析と免疫病態 (脳神経内科学) 難治性神経疾患、バイオマーカー、革新的治療法 (リウマチ・膠原病科学) 全身性自己免疫疾患、自己抗体 (発達小児医学) 新生児、小児 (腫瘍内科学) がん		
担当教員 (下線：科目責任者)	医	(糖尿病・内分泌代謝内科学) 教授 松岡孝昭、講師 森田修平 (消化器内科学) 教授 北野雅之、准教授 井口幹崇、准教授 前北隆雄、准教授 蘆田玲子、講師 井田良幸、講師 山下泰伸、講師 糸永昌弘、講師 田村 崇 (呼吸器内科学) 教授 山本信之、准教授 中西正典、准教授 洪 泰浩、講師 早田敦志 (循環器内科学) 教授 田中 篤、准教授 谷本貴志、准教授 北端宏規、講師 黒井章央、講師 塩野泰紹、講師 山野貴司、講師 柏木 学、講師 尾崎雄一、助教 太田慎吾、助教 樽谷 玲 (腎臓・体内環境調節内科学) 教授 荒木信一 (血液内科学) 教授 園木孝志、准教授 田村志宣、講師 村田祥吾、講師 蒸野寿紀、講師 細井裕樹、助教 山下友佑 (脳神経内科学) 准教授 宮本勝一、助教 中山宜昭 (リウマチ・膠原病科学) 教授 <u>藤井隆夫</u> 、准教授 岩田 慈 (発達小児医学) 教授 徳原大介、准教授 島 友子、講師 田村 彰、講師 末永智浩 (腫瘍内科学) 教授 山本信之、准教授 清水俊雄、准教授 洪 泰浩	
	薬		
授業の概要	糖尿病・内分泌代謝内科学、消化器内科学、呼吸器内科学、循環器内科学、腎臓・体内環境調節内科学、血液内科学、脳神経内科学、リウマチ・膠原病科学、発達小児医学、腫瘍内科学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。		

到達目標

(糖尿病・内分泌代謝内科学)

糖尿病発症に関わる新規分子の探求のための実験を実施できる。

(消化器内科学)

消化器疾患の病態生理解明に関する研究、消化器疾患診療用いる機器開発、あるいは消化器疾患の診断・治療に関する臨床研究を実施し、研究成果を論文として発表する。

(呼吸器内科学)

呼吸器疾患に関する課題解決のための臨床研究、基礎研究を実践することができる。

(循環器内科学)

循環器内科学における最新の光干渉断層法に関する技術を理解し、その活用法について修得する。

(腎臓・体内環境調節内科学)

慢性腎臓病の克服に向けた未解決課題へ取り組む技能を修得する。

(血液内科学)

造血器疾患診療におけるゲノム異常・免疫病態の最新の知見を吟味し、実臨床に応用できる能力を修得する。

(脳神経内科学)

難治性神経疾患の病態を解明し、早期診断のためのバイオマーカーと革新的治療法につながる知見を得る。

(リウマチ・膠原病科学)

自己抗体・抗核抗体を中心とした臨床免疫学的検査法を学び、自ら実践できる。

(発達小児医学)

新生児・小児の疾患・病的状態に関して解決すべき課題に対して臨床・基礎的研究によって解決を図り、得られたデータを適切に解析・解釈し考察できる。

(腫瘍内科学)

がんに関する課題解決のための臨床研究、基礎研究を実践することができる。

授業計画	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学)  膵β細胞機能の獲得に必須の因子を同定するとともに、膵β細胞の再生を目指したin vivo 研究を実施し、臨床応用の可能性を探る。(松岡孝昭/森田修平)</p> <p>(消化器内科学)  消化器疾患の病態生理解明について研究および論文作成の指導を行う。消化器疾患診療に関連する診断・治療機器開発について研究および論文作成の指導を行う。消化器疾患診療に関する臨床研究の研究および論文作成の指導を行う。(北野雅之/井口幹崇/前北隆雄/蘆田玲子/井田良幸/山下泰伸/糸永昌弘/田村 崇)</p> <p>(呼吸器内科学)  呼吸器疾患に関する臨床研究、基礎研究について研究指導を行う。(山本信之/中西正典/洪 泰浩/早田敦志)</p> <p>(循環器内科学)  循環器内科学における最新の光干渉断層法に関する技術を開発及びそれを用いた研究を行い論文作成する。(田中 篤/谷本貴志/北端宏規/黒井章央/塩野泰紹/山野貴司/柏木 学/尾崎雄一/太田慎吾/樽谷 玲)</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学)  慢性腎臓病の克服に向けた新たな治療戦略を探索していくための研究を指導する。(荒木信一)</p> <p>(血液内科学)  造血器疾患におけるゲノム異常解析・免疫病態解析の臨床応用について指導する。(園木孝志/田村志宣/村田祥吾/蒸野寿紀/細井裕樹、山下友佑)</p>
授業計画	<p>(脳神経内科学)  ①難治性神経疾患の病態解明、②難治性神経疾患のバイオマーカー探索と革新的治療法確立：神経病理学・分子生物学・神経化学等における最新の研究手法を用い、難治性神経疾患の病態解明とバイオマーカーの開発、さらに革新的治療法の確立に係る研究指導を行う。(宮本勝一/中山宜昭)</p> <p>(リウマチ・膠原病科学)  当教室で行っている自己抗体・抗核抗体の検査法を示し、当科のコホートにおける研究成績とともに提示する。また他の研究者のデータを考察し、自己抗体研究の論文作成の指導を行う。(藤井隆夫/岩田 慈)</p> <p>(発達小児医学)  新生児・小児疾患の課題に対する臨床・基礎研究の実践と結果の解析・考察：発達・成熟の過程で生じる新生児・小児特有の疾患・病的状態（特に、肝臓・消化管、腎臓、神経・こころ、循環器、感染症・免疫、呼吸器、代謝、血液に関する）に関して、解決・解明すべき課題を取り上げ、それら課題を解決あるいは明らかにするために必要な研究手法を修得する。また臨床・基礎研究の計画・立案を行い、研究指導者の指導のもと研究を遂行し、得られたデータの適切な解析・解釈並びに考察を行い、論文化する。(徳原大介/島友子/田村 彰/末永智浩)</p> <p>(腫瘍内科学)  がん薬物療法に関する臨床研究、基礎研究について研究指導を行う。(山本信之/清水俊雄/洪 泰浩)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（研究課題の設定内容、研究の遂行状況）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。

授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	<p>(糖尿病・内分泌代謝内科学) 特に指定しない。</p> <p>(消化器内科学)  <b>【教科書】</b>「内科学 改訂第12版」 編集：矢崎義雄、小室一成      出版社：朝倉書店</p> <p>(呼吸器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(循環器内科学) 特に指定しない。</p> <p>(腎臓・体内環境調節内科学) 特に指定しない。</p> <p>(血液内科学) 特に指定しない。</p> <p>(脳神経内科学)  <b>【教科書】</b> 特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。</p> <p>(リウマチ・膠原病科学) 特に指定しない。</p> <p>(発達小児医学) 特に指定しない。</p> <p>(腫瘍内科学) 特に指定しない。</p>